

金融緩和の出口観測で国債利回り急上昇

ポイント① ECB金融緩和の縮小観測

ECB（欧州中央銀行）のドラギ総裁は6月27日の講演で、ユーロ圏の景気回復の中で現在の金融政策スタンスを続けられ、金融はより緩和的になるとして、金融政策の変更の可能性を示唆しました。

また、6月7、8日に開催されたECB理事会後の記者発表では、従来あった-0.4%にある政策金利（ECB預金金利）を更に一段と引き下げる可能性を示す文言を削除した上、7月6日に公表されたその理事会の議事要旨によれば、各国の国債等を購入する量的緩和策の縮小の可能性についても議論されていたことが示されました。

こうしたことから市場ではECBが早晚金融緩和姿勢を弱めるとの見方が広がりました。

ポイント② ドイツ10年債利回りは今年最高水準

6月27日のドラギ総裁講演以降、欧州を中心に先進各国の国債利回りは上昇に転じていましたが、6日のECB理事会議事要旨公表を受けて、一段と利回りが上昇しました。失業率が低く、欧州で最も景気回復が進んでいるドイツの10年債利回りは、この日に9bp（ベーシスポイント）ほど上昇し、今年3月に付けた年初来最高水準を上回る0.56%まで上昇しました。

また、同じユーロ圏のフランスについては、この日は10年債利回りが10bpほど上昇して0.92%となりましたが、2月に付けた今年最高水準である1.14%までには至っていません。

ポイント③ 多くの先進諸国の国債利回りが上昇

国債利回りの上昇はユーロ圏に留まらず、幅広い先進国に広がっています。同じ欧州のスウェーデン10年債利回りがこの日に8bpほど上昇して0.71%となったほか、英国10年債利回りは6bpほど上昇して1.32%となり、米国10年債利回りも4bpほど上昇して2.37%となりました。

また、中銀が利上げを示唆していたカナダ10年債利回りは4bpほど上昇して、3月に付けた最高水準に肉薄する1.83%へと上昇しました。

7日の米国雇用統計、そして、7月後半のECBとFRB（米連邦準備制度理事会）による金融政策発表が注目されます。

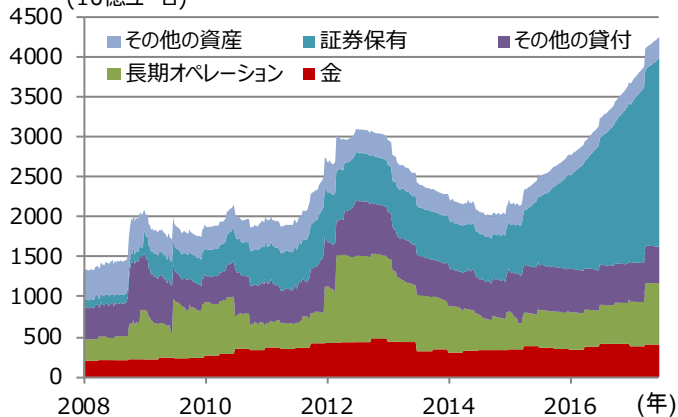
重要
イベント

7月7日 米国雇用統計(6月)
7月20日 ユーロ圏金融政策発表
7月26日 米国金融政策発表

図1：ECBの保有資産

期間：2008年1月4日～2017年6月23日、週次

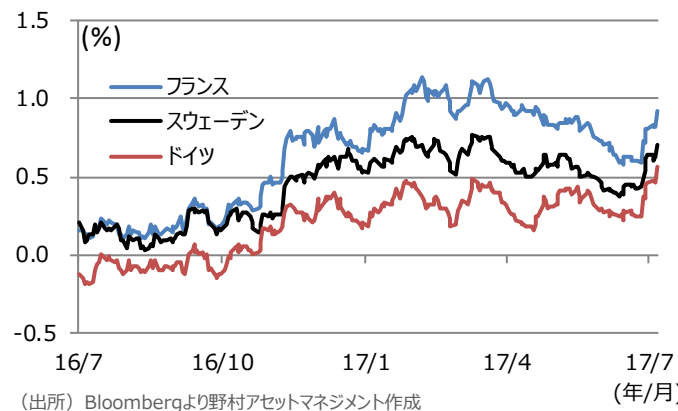
(10億ユーロ)



(出所) DataStreamより野村アセットマネジメント作成

図2：各国10年債利回りの推移（1）

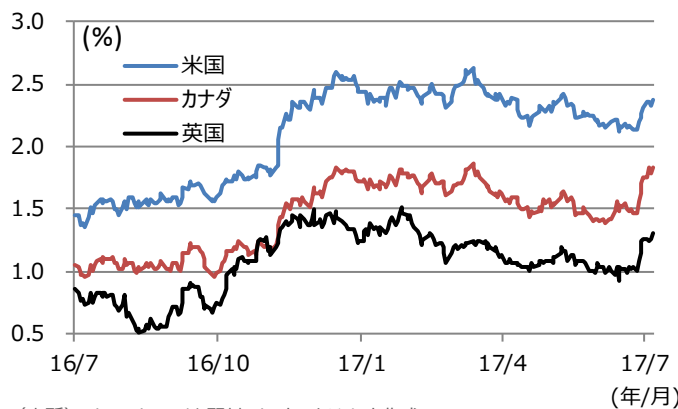
期間：2016年7月1日～2017年7月6日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：各国10年債利回りの推移（2）

期間：2016年7月1日～2017年7月6日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。